



THAILAND ECONOMIC UPDATE

June 2021

ศูนย์วิจัยกสิกรไทย
KASIKORN RESEARCH CENTER

4月のタイ経済は新型コロナウイルス感染症の第3波が下押し

▶ 要点

- ▶ 2021年4月のタイ経済回復は、新型コロナウイルス感染症の第3波の発生により、下押し圧力がかかっています。民間消費・投資、および工業生産の伸びは前月に比べ鈍化傾向にあります。しかし、輸出は、貿易相手国の需要が拡大を受け、多くの物品項目が回復を続けています。
- ▶ 2021年5月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比2.44%上昇し、2ヶ月連続でプラス成長になりました。その主な理由は、運輸・通信など非食品部門の価格が上昇したほか、石油製品の需要拡大を背景にエネルギー部門が大幅に上昇しました。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.49%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。
- ▶ カシコン・リサーチセンターは、2021年の国内総生産(GDP)成長率の予測を前年比1.8%と発表し、4月の前回予測から据え置きました。タイ経済は回復傾向にあるものの、依然として不透明感が強い状態が続いています。新型コロナウイルス感染症の第3波で国民消費の成長率見通しを0.9%増に下方修正しました。
- ▶ しかし、世界経済回復により、タイの輸出は2021年に好転することが予想され、カシコン・リサーチセンターは、輸出の成長率見通しを9.0%増に上方修正しました。

▶ タイ経済の動向

2021年4月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2021年4月の重要な経済指標によると、新型コロナウイルス感染症の第3波の発生がタイ景気回復に下押し圧力がかかっています。民間消費・投資、および工業生産の伸びは前月に比べ鈍化傾向にあります。しかし、輸出は、貿易相手国の需要が拡大を受け、引き続きプラス成長となっています。

4月の民間消費は前年同月比8.7%上昇したものの、前月比で4.3%減少しました。新型コロナウイルス感染症の流行第3波が民間消費に影響を及ぼし始めたためです。とりわけ、非耐久消費財とサービスが前月比5.3%減、3.9%減となりました。

一方で、民間投資は、前年同月比11.9%上昇しました。昨年にコロナ流行の第1波による全国一律の

2021年4月のタイ経済指標成長率 (Y-O-Y: 前年比)



都市封鎖で低ベース効果があったことによります。しかし、前月比でみると3.1%減少しました。とりわけ、国内の機械販売が6.5%減となりました。

4月の輸出は、前年同月比19.1%増の213億米ドルとなりました。貿易相手国の需要が拡大を受け、多くの物品項目が回復を続けています。このほか、電子製品の輸出はサイクルの好転による恩恵を受けました。

工業生産に関しては、前年同月比18.5%上昇したものの、前月比で0.1%減となりやや横ばいとなりました。また、観光業では、外国人観光客が依然として落ち込んでいます。

2021年5月のタイのインフレ率

商務省が発表した2021年5月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比2.44%上昇し、2ヶ月連続でプラス成長になりました。その主な理由は、運輸・通信など非食品部門の価格が上昇したほか、石油製品の需要拡大を背景にエネルギー部門が大幅に上昇しました。

品目別にみると、食品・飲料部門は前年同月比0.13%増でした。果物が6.09%、調味料が3.72%、肉・魚が2.58%上昇しました。しかし、米・粉製品は6.16%、野菜は5.49%下落しました。野菜は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で一部の市場が閉鎖されたことで供給過剰が生じ、価格が下落しました。一方で、非食品部門は3.89%上昇しました。運輸・通信が10.18%上昇し、全体を押し上げました。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.49%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。

4月の輸出は、前年同月比19.1%増の213億米ドル。

図1: 民間消費及び民間投資(成長率: 前年比)



図2: 輸出、工業生産、外国人観光客数(成長率: 前年比)

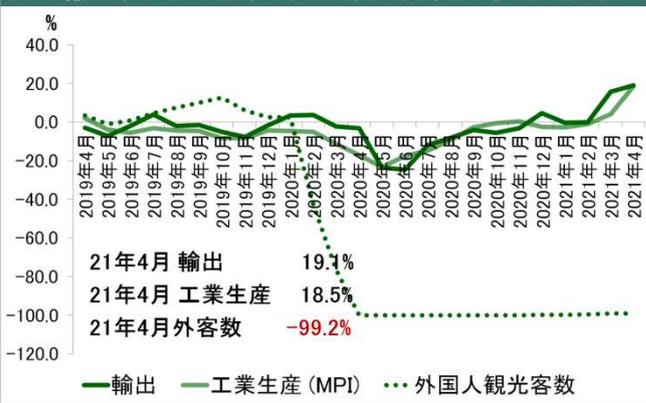


図3: ヘッドラインインフレ率及びコアインフレ率

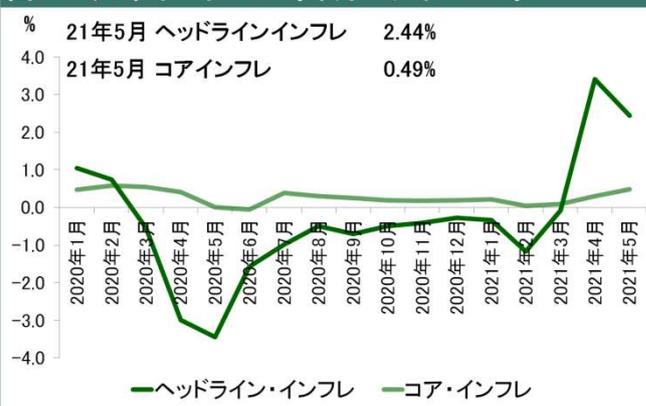


図4: 食品・飲料と非食品・飲料の価格



出所: タイ国中央銀行、タイ国工業省、タイ国観光・スポーツ省、タイ国商務省

2021 年の GDP 成長率予測 1.8% に据え置き

カシコン・リサーチセンターは、2021 年の国内総生産 (GDP) 成長率の予測を前年比 1.8% と発表し、4 月の前回予測から据え置きました。タイ経済は回復傾向にあるものの、依然として不透明感が強い状態が続いています。新型コロナウイルス感染症の第 3 波で国民消費の成長率見通しを 0.9% 増に下方修正しました。

しかし、米国をはじめ先進国中心とするワクチン普及などから、世界経済は徐々に自律的な回復へとシフトしています。OECD は 5 月 31 日、2021 年の世界の経済成長率を 5.8% と上方修正しました。世界経済回復により、タイの輸出は 2021 年に好転することが予想されます。カシコン・リサーチセンターは、輸出の成長率見通しを 9.0% 増に上方修正しました。

ワクチン接種が進めば、タイ経済は第 4 四半期に回復に転ずると予想されます。しかし、今後の課題としては、

2022 年に公的債務残高が GDP 比の上限である 60% を超える見通しです。新型コロナウイルス感染拡大の対策により、財政赤字の拡大が避けられませんが、長期的に財政赤字を縮小させる必要があります。

そして、タイの家計債務残高が GDP 比 80% を超える高い水準に達したことも今後の課題となります。カシコン・リサーチセンターのタイ市民意見調査により、2021 年第 2 四半期の時点で新型コロナウイルス感染拡大の第 3 波の影響を受けタイ国民約 59.6% の収入が減少しました。この調査結果に基づいてカシコン・リサーチセンターは 2021 年の民間消費の成長率見通しを 0.9% に下方修正しました。

更に、原油価格の上昇や米経済の活況により、世界のインフレを加速させ、カシコン・リサーチセンターは、2021 年にタイのインフレ率を 1.2% に上方修正しました。

図5: 2021年タイ国経済指標の予測

経済指標 (%YoY)	2020年	2021年	
		21年4月の予測	21年6月の予測
GDP 成長率	-6.1	1.8	1.8
— 民間消費	-1.0	2.8	0.9
— 政府消費	0.8	3.0	3.0
— 民間投資	-8.4	1.0	3.5
— 公共投資	5.7	6.1	8.5
— 輸出	-6.0	7.0	9.0
— 輸入	-12.4	10.0	15.5
ヘッドライン・インフレ率	-0.85	1.1	1.2

出所: タイ国家経済社会開発評議会 (NESDC), タイ国商務省 (MOC), カシコン・リサーチセンターの予測 (2021年6月)

Disclaimer

This research paper is arranged for public information, which has been obtained from sources believed to be reliable. KResearch does not warrant its completeness, reliability or accuracy for commerce or fitness for a particular purpose. The information contained herein may be subject to change at any time without notice. Reliance upon any information contained herein shall be undertaken at a user's own risk KResearch shall not be liable to any user, or anyone else for any damage occurring from the use of any content herein. Nothing in this research paper shall be counted as containing any advice, recommendation or opinion for decision making in business.